

HP OpenView GlancePlus Pak

HP-UX 11i v3 (11.31) オペレーティング システム

ソフトウェア バージョン : C.04.55.000

インストール ガイド

Manufacturing Part Number: B3701-90047

本書の発行日 : 2006 年 10 月

ソフトウェアのリリース日 : 2006 年 10 月



ご注意

保証書

HP 製品およびサービスに対する保証は、それらの製品およびサービスに付属している保証規定に明記された条項に限られます。本書に記載された内容は、追加の保証を規定するものではありません。HP は、本書の技術的および編集上の誤りや不備について、その責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで、米国政府にライセンスが付与されます。

著作権

© Copyright 1983-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Adobe® および Acrobat® は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Motif® は、米国およびその他の国々における Open Software Foundation の登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

サポートについて

次の HP OpenView のサポート専用 Web サイトを参照することができます。

<http://www.hp.com/managementsoftware/support>

HP OpenView オンライン サポートでは、対話型テクニカル サポート ツールをすぐにご利用いただけます。このサポート サイトでは、次の機能が用意されています。

- 技術情報の検索
- サポート ケースの登録とトラッキング、およびエンハンスメント要求の送信とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート 契約の管理
- HP サポート連絡先の検索
- 利用可能なサービスの参照
- ユーザー同士のディスカッション
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

ほとんどのサポート エリアでは、アクセスするために HP Passport ユーザーとして登録、サインインする必要があります。また、多くのサポート エリアでサポート契約が必要です。

アクセス レベルに関する詳細は以下を参照してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID の登録は以下で行うことができます。

<http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

目次

1	GlancePlus Pak のコンポーネント	7
	はじめに	7
	GlancePlus	8
	OV Performance Agent	10
2	ライセンス	11
	はじめに	11
3	インストール要件	13
	はじめに	13
	ハードウェア	14
	システム要件	14
	ディスプレイ要件	14
	ディスク スペース要件	14
	ソフトウェア	15
4	GlancePlus Pak のインストール	17
	はじめに	17
	インストールの方法	18
	インストールの結果	19
	インストールに成功した場合	19
	インストールに失敗した場合	19
	GlancePlus Pak の削除	20
	前のバージョンの GlancePlus Pak でインストールされた ITO-SE の削除	21
5	GlancePlus Pak コンポーネントの実行	23
	はじめに	23

OV Performance Agent の起動.....	24
GlancePlus の起動	28
6 ドキュメント.....	29
はじめに.....	29
印刷可能なファイル.....	30
リリース ノート.....	31
Web によるマニュアルの提供.....	32
索引	33

1 GlancePlus Pak のコンポーネント

はじめに

GlancePlus Pak には次の製品がパッケージされています。

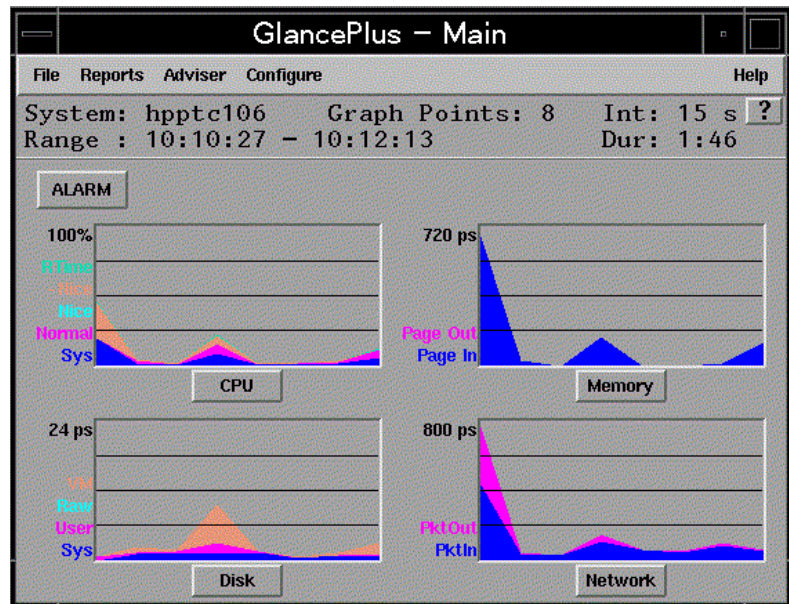
- GlancePlus
- OV Performance Agent

これらの製品に共通するノード レベル管理機能により、システムのパフォーマンスとアベイラビリティが通知されます。この後の項では、これらの製品を使用して GlancePlus Pak をインストールしたシステムを管理する具体的な方法を説明します。

GlancePlus

GlancePlus は、システムのパフォーマンスに関する情報を即座に提供する、高性能なリアルタイム システム パフォーマンス監視診断ツールです。この機能によりシステム アクティビティを簡単に検証し、パフォーマンス ボトルネックを特定および解決し、システムが効率よく動作するように調整できます。GlancePlus を使用すると、ユーザーの生産性が向上し、ビジネス アプリケーションをより円滑に動作させることができます。

図 1 GlancePlus Motif モード インターフェイス



GlancePlus にアクセスするには、次の 2 つの方法があります。Motif® ベースのグラフィカル インターフェイスである gpm と、キャラクタ モード インターフェイスである glance です。どちらのモードを使っても、同じパフォーマンス データが得られます。

Motif® ベースの GlancePlus インターフェイスである gpm を使用すると、システム アクティビティを一目で確認できるグラフが表示されます。このインターフェイスでは次の処理を行うことができます。

- システム パフォーマンスをわかりやすいグラフ形式で表示します。複数のウィンドウを使って、問題を細分化して表示することもできます。

- アラームとダイナミック システム パフォーマンスのグラフがアイコン内に表示されるので、別のタスクを処理しながら効率よくシステム パフォーマンスを監視できます。
- 自分のニーズや作業の方法に合わせて製品を設定します。
- HP 9000 システム上の HP Process Resource Management ソフトウェアでセットアップしたアロケーショングループのリソースの状況をグラフにより表示します。
- 本製品の使用方法をすばやく習得できます。製品の使用やパフォーマンスデータの分析を開始するにあたって、膨大なマニュアルを読む必要がありません。このオンライン ヘルプは、ハイパーリンクと状況依存機能を備えています。ウィンドウまたはアイテムの上をクリックすることで、使用している製品の領域に関する情報が表示されます。

GlancePlus キャラクタ モード インターフェイスの glance は、GlancePlus データを ASCII テキストとして表示するため、システムの負担が少ない上、シリアル回線を介して高速送信できます。このインターフェイスでは次の処理を行うことができます。

- システムをリモートで監視したり、X 端末を使用できないときにシステムを監視します。
- メモリ リソースが不足してもシステムを監視できます。
- シリアル データ通信でパフォーマンスを監視します。
- リアルタイム パフォーマンス メトリック アラームにより、潜在的な問題を検出して警告を表示します。

OV Performance Agent

HP OpenView Performance Agent は、システムのリソースとパフォーマンス データをログ ファイルに収集します。また、タイム スタンプを作成し、要約したデータを使用してアラーム状態を検出します。OpenView Performance Agent から入手したデータおよびアラーム情報は、別の製品 (HP OpenView Performance Manager for UNIX、HP OpenView Operations for UNIX など) でも簡単に使用でき、分析や問題の検出に役立てることができます。

OpenView Performance Agent を使用すると、システムの活動状況の傾向を把握し、作業負荷を調整するための情報を収集し、将来的なシステムのアップグレードの計画を的確に立てることができます。さらに OpenView Performance Agent により、使用しているシステムを OpenView Operations または OpenView Performance Manager ベースのフレームワークに統合して、分散環境を中央から管理できます。

OpenView Performance Agent は、トランザクションがシステム内で実行される終端間応答時間の測定によりデータを収集します。データ ソース統合 (DSI) 技術により、システム外のソースからデータを収集するように OpenView Performance Agent を設定できます。OpenView Performance Agent データを別の製品に統合して、分析、問題検出、およびアラーム用に使用することもできます。

OpenView Performance Agent の特長を次に示します。

- 環境の作業負荷の特定とリソースの使用状況の分析により、システム作業負荷を効率よく調整します。
- 過去のデータの傾向分析から、ボトルネックを分離および特定します。
- トランザクション応答時間に基づいてサービス レベルの管理を実行し、エラー状態に応答します。

2 ライセンス

はじめに

この章では GlancePlus Pak のライセンス条件についての概要を示します。

ライセンス条件についての詳細は、ライセンスに関する約定および条件を参照してください。

GlancePlus Pak ライセンス内容

GlancePlus Pak は、1つのシステムにのみインストールおよび使用されるようにライセンスされています。

3 インストール要件

はじめに

GlancePlus Pak をインストールする前に、システムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- ハードウェア
- ソフトウェア

ハードウェア

システム要件

- HP 9000 サーバー、HP Integrity サーバー、HP ワークステーション
- 32 MB RAM、64 MB 仮想メモリ

ディスプレイ要件

GlancePlus Motif インターフェイスの gpm またはキャラクタ モード インターフェイスの glance を使用する場合は、次の要件に従ってください。

- gpm: HP X 端末または X ワークステーション ディスプレイ
- glance: curses ライブラリがサポートする端末

ディスク スペース要件

- GlancePlus および OpenView Performance Agent を初めてインストールする場合は、`/opt/perf/` および `/opt/ov/` ディレクトリに 100 MB の空き容量を確保してください。
- OpenView Performance Agent は、`/var/opt/perf/` および `/var/opt/ov/` ディレクトリに 125 MB の空き容量が必要です。

ソフトウェア

- HP-UX 11i v3 (11.31)
X-Window ライブラリ X11R6 および Motif ライブラリ 2.1 を使用
- システム パッチの要件を次に示します。
/opt/perf/ReleaseNotes の製品リリース ノートを参照してください。

4 GlancePlus Pak のインストール

はじめに

GlancePlus Pak のインストールでは、次のトピックを取り上げます。

- インストールの方法
- インストールの結果
- GlancePlus Pak の削除
- 前のバージョンの GlancePlus Pak でインストールされた ITO-SE の削除

インストールの方法

次の手順を実行して、GlancePlus Pak ソース メディアから GlancePlus Pak をインストールします。インストールには約 30 分かかります。工場出荷時のシステムにソフトウェアがあらかじめインストールされている場合は、以下の手順を省略して第 5 章、「GlancePlus Pak コンポーネントの実行」に進んでください。

- 1 **root** としてシステムにログオンします。
- 2 GlancePlus Pak、GlancePlus、または OV Performance Agent がインストール済みの場合は、次の手順に従います。
 - a 次のように perfstat を実行して、使用中のパフォーマンス ツールを確認します。

```
/opt/perf/bin/perfstat
```

- b 別のユーザーが glance または gpm を実行中の場合は、実行しているユーザーにこれらのプログラムを終了するように指示します。
- c OV Performance Agent (実行時)、すべての ARM 装備のアプリケーション、およびすべてのパフォーマンス ツール デーモンは、次のように入力して終了します。

```
/opt/perf/bin/mwa stop  
/opt/perf/bin/midaemon -T  
/opt/perf/bin/ttd -k
```

ttd を終了する前に、すべての ARM 装備のアプリケーションも同様に終了してください。終了できていない場合、トランザクション データの収集を予測できなくなります。

- d 再度 perfstat を実行して、すべてのパフォーマンス ツールが終了していることを確認します。

GlancePlus Pak を新しくインストールする場合は、次の手順に従います。

- e /opt/ ディレクトリに 100 MB 以上の空き容量があることを確認します。容量が足りないときは、容量を確保できる別の場所に `<path>/perf` ディレクトリを新たに作成します。作成したディレクトリと /opt/perf、/opt/ov/ との間にシンボリック リンクを作成します。
- 3 ここで示すように、swinstall を実行します。ソースの参照先をインストール メディアに変更し、GlancePlus Pak Software バンドルを選択します。

```
swinstall -s <hostname>:<depot_path> <product_bundle_ID>
```

インストールの結果

swinstall の分析フェーズにより確認される内容を次に示します。

- オペレーティング システムのバージョン
- ディスクの空き容量
- RAM およびスワップ スペース
- カーネル パラメータ

結果は、ログファイル `/var/adm/sw/swagent.log` で参照できます。perfstat を実行して、GlancePlus Pak のコンポーネントの一部または全体を確認できます。

インストールに成功した場合

GlancePlus Pak のインストールでは、`/etc/profile` で使用されるファイルが自動的に更新されるため、ユーザーは自分のシェル環境変数を手動で更新しなくても、インストールした製品およびその `man` ページにアクセスできます。`/etc/profile` の変更を反映するには、もう一度ログインする必要があります。ほとんどの実行ファイルは、`/opt/perf/bin` にあります。`man` ページは、`/opt/perf/man/` にあります。

インストールに失敗した場合

インストールが正常に終了しなかった原因として、システム要件が満たされていないことやパフォーマンス ツール (OpenView Performance Agent など) を実行していたことが考えられます (こうしたアプリケーションは終了させておきます)。swinstall ログ ファイル `/var/adm/sw/swagent.log` を確認して、原因を究明してください。

GlancePlus Pak の削除

GlancePlus Pak を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 **root** としてログオンします。
- 2 `perfstat` を実行して、アクティブなパフォーマンス ツールを確認します。次のように入力します。

```
/opt/perf/bin/perfstat
```

別のユーザーが `glance`、`gpm` または ARM 装備のアプリケーションを実行中の場合は、実行しているユーザーにこれらのプログラムを終了するように指示します。

- 3 OV Performance Agent が実行中の場合は、OV Performance Agent およびすべてのパフォーマンス ツール デーモンを停止します。次のように入力します。

```
/opt/perf/bin/mwa stop  
/opt/perf/bin/midaemon -T  
/opt/perf/bin/ttd -k
```

`ttd` を終了したときに ARM 装備のアプリケーションが実行中であると、トランザクション データ収集の結果を予測できません。

- 4 再度 `perfstat` を実行して、すべてのパフォーマンス ツールが停止していることを確認します。
- 5 GlancePlus Pak を削除します。次のように入力します。

```
swremove <file_ProductID>
```

システムが OV Operations for UNIX の管理ノードの場合は、OV Operations Agent は削除されません。

前のバージョンの GlancePlus Pak でインストールされた ITO-SE の削除

前のバージョン (C.03.55 が ITO-SE を含む最終バージョンです) の GlancePlus Pak で存在する ITO-SE が残っている場合、GlancePlus Pak から ITO-SE を削除できます。

前のバージョンの GlancePlus Pak からインストールされた ITO-SE を削除するには、次の手順に従います。

- 1 **root** としてログオンします。
- 2 `perfstat` を実行して、ノードが管理されているかを確認します。次のように入力します。

```
/opt/perf/bin/perfstat -v
```

- システムが OV Operations for UNIX の管理ノードの場合は、OV Operations (ITO) Agent は削除されません。
- OpenView Database Pak 2000 がシステムで動作中の場合、スクリプトは、ITO-SE または MeasureWare Integration Templates を削除できません。

GlancePlus Pak を 11.0 システムで更新し、Database Pak がシステム内に存在していた場合、Database Pak は ITO-SE に依存します。ITO-SE 関連のコンポーネントを削除した場合、Database Pak Smart PlugIn レポート機能が削除されます。

- 3 ITO-SE および MeasureWare Agent Integration Templates を削除します。次のように入力します。

```
/opt/perf/bin/itose.remove
```



GlancePlus Pak の 2002 年 6 月以降のリリース版に更新した場合、GlancePlus Pak 2000 で提供されていた ITO-SE と MeasureWare Integration Templates はサポートされません。これら 2 つのコンポーネントがシステムに存在していた状態で 2002 年 6 月リリース版に更新した場合、これらはシステム内に残ります。削除方法については、第 4 章の「前のバージョンの GlancePlus Pak でインストールされた ITO-SE の削除」を参照してください。

5 GlancePlus Pak コンポーネントの実行

はじめに

GlancePlus Pak のインストール後は、OV Performance Agent のデータ収集やアラームの有効化を手動で開始できます。

ここでは次の項目について取り上げます。

- OV Performance Agent の起動
- GlancePlus の起動

OV Performance Agent の起動

インストールの終了後は、OV Performance Agent を起動できます。OV Performance Agent の ovpa と mwa スクリプトにより、すべてまたは一部のプロセスを開始したり、現在実行中のプロセスを終了または再起動したりすることができます。

OV Performance Agent を初めてインストールする場合、デフォルトのデータ通信モードは HTTP です。OV Performance Agent をアップグレードする場合は、それまで使用されていた DCE データ通信モードがデフォルトで有効になります。

有効にするデータ通信プロトコルに応じて、ovpa、mwa のいずれかのスクリプトを使用し、OVPA を起動または終了してください。



通常は、ovpa スクリプトにより OVPA を起動し、OVPA を有効にして HTTP データ通信プロトコルを使用することをお勧めします。DCE データ通信プロトコルを使用する場合は、後方互換性のため、mwa スクリプトを使用してください。

各プロトコルで開始できるサービスを次の表に示します。

表 1 各プロトコルで開始される OVPA のサービス

HTTP プロトコルで開始されるサービス	DCE プロトコルで開始されるサービス
scopeux	scopeux
coda	coda
perfalarm	perfalarm
midaemon	midaemon
ttd	ttd
ovc (BBC 5)	ovc (BBC 5)
ovbbccb (BBC 5)	ovbbccb (BBC 5)
	perflbd
	rep_server
	alarmgen (perfalarm がない場合)



DCE 通信では、`perflbd`、`rep_server`、`alarmgen` プロセスが使用されます。

OV Performance Agent を起動する前に、次のコマンドを入力して、実行中のプロセスがないかを確認します。

```
/opt/perf/bin/perfstat
```

ovpa スクリプトの使用

ovpa により、OV Performance Agent とそのプロセスを起動します。

- 1 **root** としてログインします。
- 2 次のように入力します。 **/opt/perf/bin/ovpa start**

`ovpa start` スクリプトにより、OV Performance Agent と、`scopeux` (データコレクタ)、`midaemon` (測定インターフェイスデーモン)、`ttd` (トランザクショントラッキングデーモン)、`coda`、`ovc`、`ovbbccb`、アラームジェネレータなどのすべてのプロセスが起動します。スクリプトを実行すると、起動されたプロセスのステータスが画面に表示されます。

`ovpa` スクリプトとオプションにより、実行中の OV Performance Agent のプロセスを終了したり再起動したりすることができます。

- `ovpa stop` により、`ttd` (トランザクショントラッキングデーモン)、`ovc`、`ovbbccb` を除く、OV Performance Agent のすべてのプロセスが終了します。`ttd` は常に実行中になります。OpenView Operations エージェントがシステムで実行中の場合は、`ovpa stop` を入力しても `coda` デーモンは終了しません。



`ttd` を終了する必要がある場合は、実行中の ARM 装備のアプリケーションを終了してから、`ttd` と OV Performance Agent のプロセスを再起動してください。

- `ovpa restart server` を入力すると、`coda` がいったん終了してから再起動するため、アラーム、OV Performance Manager などのクライアントのアクセスが一時的に無効になります。また、`datasources` ファイルが再度読み込まれます。さらに、`perfalarm` プロセスもいったん終了してから再起動し、`alarmdef` ファイルが再度読み込まれます。
- `ovpa restart` を入力すると、`scopeux` とサーバーのプロセスが一時的に終了してから再起動します。また、`parm` ファイルが読み込まれ、トランザクションデーモン `ttd` に設定ファイル `ttd.conf` を再度読み込ませます。

- `ovpa restart alarm` を入力すると、ファイルが変更された場合に、OVPA のすべてのプロセスを再起動しなくても新しいアラームの定義が有効になるように、アラーム ジェネレータのプロセスにより `alarmdef` ファイルが再度読み込まれます。この動作によって他のプロセスが中断されることはありません。

mwa スクリプトの使用

`mwa` により、OV Performance Agent とそのプロセスを起動します。

- 1 `root` としてログインします。
- 2 次のように入力して、OV Performance Agent とそのプロセスを起動します。

```
/opt/perf/bin/mwa start
```

`mwa start` スクリプトにより、OV Performance Agent と、`scopeux` (データコレクタ)、`midaemon` (測定インターフェイスデーモン)、`ttd` (トランザクショントラッキングデーモン)、`coda`、`ovc`、`ovbbcbb`、`perflbd`、`rep_server`、アラーム ジェネレータなどのすべてのプロセスが起動します。スクリプトを実行すると、実行中の一部のプロセスと使用中のファイルの名前が表示されます。

`mwa` スクリプトとオプションにより、実行中の OV Performance Agent のプロセスを終了したり再起動したりすることができます。

- `mwa stop` により、`ttd` (トランザクショントラッキングデーモン)、`ovc`、`ovbbcbb` を除く、OV Performance Agent のすべてのプロセスが終了します。`ttd` は常に実行中になります。他の製品で `coda` デーモンが使用されている場合は、`mwa stop` を入力しても `coda` は終了しません。
 - `mwa restart` オプションにより、OV Performance Agent を再初期化できます。設定ファイルの変更は、プロセスを再起動した場合のみ有効になります。
 - `mwa restart server` により、`coda` デーモンとレポジトリ サーバーが再起動するため、アラーム、OV Performance Manager などのクライアントのアクセスが一時的に無効になります。また、`perflbd.rc` ファイルが再度読み込まれます。さらに、アラーム ジェネレータのプロセスもいったん終了してから再起動し、`alarmdef` ファイルが再度読み込まれます。HTTP ベースのアラーム ジェネレータ `perfalarm` がデフォルトで有効になります¹。
1. DCE ベースのアラーム ジェネレータ `alarmgen` を有効にするには、OV Performance Agent を終了し、`perfalarm` 実行ファイルの名前を `perfalarm.old` に変更してから、`mwa` スクリプトにより OV Performance Agent を再起動してください。

- `mwa restart` により、サーバーのプロセスと、`coda`、`scopeux`、トランザクション デーモン `ttd` などのすべてのデーモンが再起動されます。また、`parm` ファイルとトランザクション設定ファイル `ttd.conf` が再度読み込まれます。



`ttd` を終了する場合は、実行中の ARM 装備のアプリケーションを終了してから、`ttd` と **OV Performance Agent** のプロセスを再起動してください。

- `mwa restart alarm` を入力すると、アラーム ジェネレータのプロセスが再起動し、`alarmdef` ファイルが再度読み込まれます。この動作によって他のプロセスが中断されることはありません。

詳細は『HP OpenView Performance Agent HP-UX 版インストール、設定ガイド』を参照してください。

`parm` ファイルをシステムに合わせてカスタマイズする方法については、『HP OpenView Performance Agent for UNIX ユーザー マニュアル』の第2章「データ収集の管理」を参照してください。アラーム定義をカスタマイズする方法は、『HP OpenView Performance Agent for UNIX ユーザー マニュアル』の第7章「パフォーマンス アラーム」を参照してください。

GlancePlus の起動

GlancePlus の Motif インターフェイスを起動する前に、ワークステーションの `DISPLAY` 変数を設定してください。これは、システム構成により異なり、次のようになります。

Korn シェル: `export DISPLAY=<workstation_ID>:0.0`

C シェル: `setenv DISPLAY <workstation_ID>:0.0`

Bourne シェル: `DISPLAY=<workstation_ID>:0.0`

<workstation_ID> は、ワークステーションの識別子を表します。また、`xhost` を設定して、表示アクセスを可能にする必要があります。詳細は、`xhost` の `man` ページを参照してください。

コマンドラインから GlancePlus を起動する場合:

- 1 GlancePlus がインストールされているシステムにログオンします。
- 2 次のように入力します。
 - Motif インターフェイスで実行する場合: **gpm**
 - キャラクタモード インターフェイスで実行する場合: **glance**

6 ドキュメント

はじめに

印刷されたマニュアルの他に、GlancePlus Pak には次のドキュメントがあります。

- 印刷可能なファイル
- リリース ノート
- Web によるマニュアルの提供

印刷可能なファイル

印刷可能なファイルには、**Adobe Acrobat** (*.pdf)、および **ASCII** テキスト ファイルがあります。印刷可能なファイルは、次のディレクトリのサブディレクトリにインストールされます。

/opt/perf/paperdocs/gpak/C/ – GlancePlus Pak 用

/opt/perf/paperdocs/ovpa/C/ – OpenView Performance Agent 用

/opt/perf/paperdocs/gp/C/ – GlancePlus 用

リリース ノート

HP OpenView GlancePlus Pak HP-UX 版のリリース ノートは次のディレクトリにあります。

`/opt/perf/ReleaseNotes/`

ドキュメントに関する詳細は、HP OpenView GlancePlus Pak HP-UX 版のリリース ノート、『HP OpenView Performance Agent HP-UX 版インストール、設定ガイド』、『GlancePlus インストールガイド』を参照してください。

Web によるマニュアルの提供

Adobe Acrobat フォーマット (*.pdf) のマニュアル類は、次の HP OpenView Manual Web サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

製品リスト ボックスから「GlancePlus Pak」を選択し、さらにバージョン、OS、マニュアルのタイトルの順に選択してください。[Open] をクリックするとドキュメントをオンラインで閲覧できます。また、[Download] をクリックして、コンピュータにファイルをダウンロードすることもできます。

索引

A

alarmdef ファイル , 25

D

DISPLAY 変数
GlancePlus での設定 , 28

G

GlancePlus
DISPLAY 変数の設定 , 28
motif モード、gpm, 8
オンライン ヘルプ , 9
起動 , 28
キャラクタ モード、glance, 8
説明 , 8

GlancePlus Pak
GlancePlus Pak の削除 , 20
ITO-SE の削除 , 21

GlancePlus のオンライン ヘルプ , 9

I

ITO-SE
GlancePlus Pak から削除 , 21

M

man ページ , 19
MeasureWare Integration Templates, 21

mwa スクリプト
mwa restart, 27
mwa restart alarm, 27
mwa restart server, 26
mwa start, 26
mwa stop, 26

O

OpenView Performance Agent
parm ファイル , 28
起動 , 28
説明 , 10

OV Performance Agent
再起動 , 25
終了と再起動 , 25

ovpa restart スクリプト , 25

ovpa スクリプト , 25
ovpa start, 25

P

parm ファイル , 28

い

印刷可能なファイル , 30

インストール
結果の確認 , 19
成功 , 19

お

オペレーティング システム要件 , 15

き

起動

- GlancePlus, 28
- mwa の使用, 26
- OpenView Performance Agent, 28
- OV Performance Agent, 24
- ovpa の使用, 25

さ

再起動

- OV Performance Agent, 25

削除

- GlancePlus Pak, 20
- GlancePlus Pak の ITO-SE, 21

し

システム要件, 14

終了

- OV Performance Agent, 25

す

スクリプト

- ovpa restart alarm, 26
- ovpa stop, 25

そ

ソフトウェア要件, 15

て

ディスプレイ要件, 14

ディレクトリ

- 印刷可能なファイル, 30

と

ドキュメント

- Web, 32
- 印刷可能なファイル, 30
- リリース ノート, 31

は

ハードウェア

- システム要件, 14
- ディスク スペース要件, 14
- ディスプレイ要件, 14

ふ

ファイル

- man ページ, 19
- parm, 28
- profile の自動更新, 19
- 印刷用, 30
- 実行, 19

ゆ

有効

- アラーム ジェネレータ, 26

よ

要件

- オペレーティング システム, 15
- システム, 14
- ソフトウェア, 15
- ディスプレイ, 14

ら

ライセンス内容, 11

り

リリース ノート, 31